

くくや台幼稚園モンテッソーリ通信 第1号

モンテッソーリ教育とは？

❖モンテッソーリ教育は、従来の教育方法のように、教師が子どもへ教えるという一方通行なものでなく、環境に順応しようと多くの敏感期が訪れた子どもに、ぴったりの整えられた環境の中で、子どもが自ら選び、自ら発達・成長していくことを援助するという考えのもとで行われます。教師の存在は子どもにとって指導者でなく、あくまでも環境の一部として存在します。ただし、良いも悪いも全てそのままに吸収する時期なので、最新の注意を払いながら関わります。環境に関わる際も、自由と規律があります。道具を使うとき、教室内で活動するとき等、全くの自由で好き勝手に活動するわけではありません。選択の自由や活動の自由が与えられても、取り扱い方、過ごし方等のルールがあります。

❖子どもは 生まれながらに自分で成長・発達させようという力を持っています。その時、子どもが成長・発達させようとしている部分に対して、“敏感期(びんかんき)”が現れます。一般的に発達課題と呼ばれるものと敏感期の一部が重なることがあります



敏感期って？

子どものこんな様子を見たことがありますか？

- ① お母さんの真似をして、お掃除や洗濯をやりたがる
- ② 毎日、子どもが自分でやっている事を手伝ったら急に機嫌が悪くなった
- ③ 同じ食べ物でも、メーカーによって好みがある

etc...

これらは全て、子どもの敏感期の表れです！

① ②③の子どもは、それぞれ模倣(真似る)、秩序(決まりごと)感覚器官(味覚)に対して、とても敏感な時期を迎えているということです。敏感期が現れてくるようになる背景は様々です。小さい子供ほど身体や精神の未熟さから(未熟だと環境に順応しやすいというメリットがあるためこの時期は必要で重要です)敏感期として現れるものが多いのですが、だんだんと大きくなるにつれ、普段の人間としての生活を観察し実際に自分の体を使ってできるようにしていきたいという欲求となっていきます。

この欲求が阻害されるなど、例えば全部大人が代わりにやってしまうとか足を使って歩きたい時期に移動手段として抱っこばかりしてしまうとか、を繰り返してしまうと その後に出てくるはずの敏感期が出てき辛く、発達を阻害してしまいます。敏感期だからといってやってはいけないことを見守る必要はありませんが、代わりにその欲求が満たされるようなものを用意すると良いですね 敏感期=子どもが成長しようとする証 なのですが、捉え方を誤ると無気力な子や、わがままな子になったりと著しく発達を阻害してしまいます。敏感期というものを知り、子どもの行動には 意味があることを忘れずに、じっくりと子どもを観察してみてください。きっと今までとは違う 子どもの姿が見え、関わり方のヒントが見えてくるでしょう。

(‘ω’o[詳しくは、[はとぼっぼくらぶ・お仕事紹介](#)にてお話しします！]o